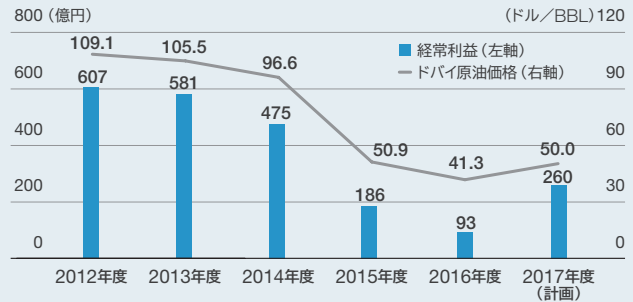


経常利益



※操業会社(アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発)は12月決算

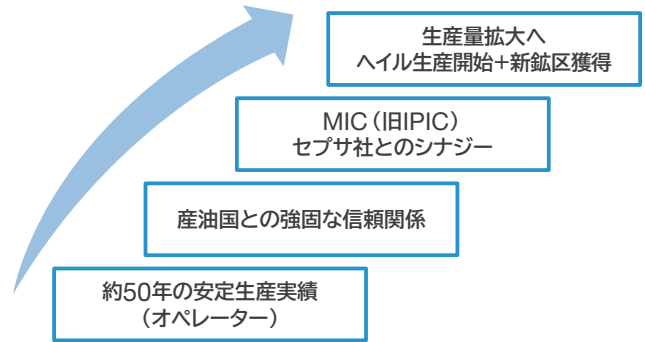
強み

- 約50年にわたるアブダビでの安定した海上油田生産実績に基づく強固な信頼関係
- アブダビ石油の既存3油田の30年間の権益延長とハイル鉱区取得
- 当社の筆頭株主であるMIC (旧IPIC)^{※1}の出資先、セプサ社^{※2}とのアライアンス

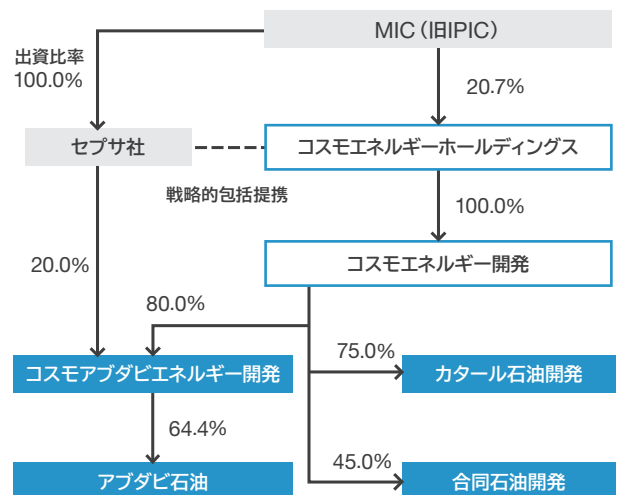
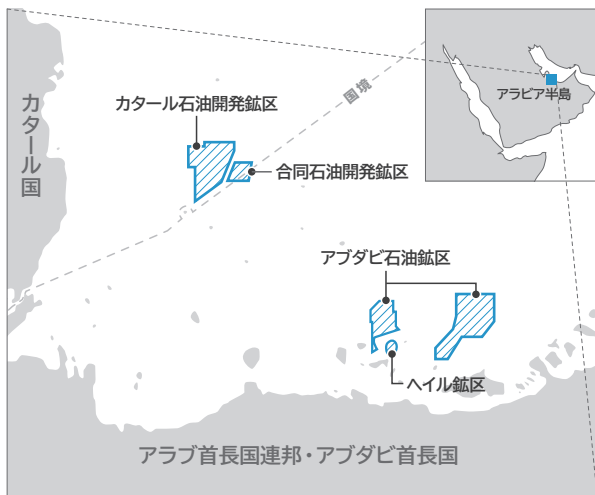
※1 アブダビ首長国100%出資のエネルギー関連投資会社PIC (International Petroleum Investment Company) と MDC (Mubadala Development Company) が統合し、持株会社としてMIC (Mubadala Investment Company) 設立。
 ※2 スペインの大手総合石油会社

中東におけるオペレーターシップ (自社操業) がもたらす価値により生産量拡大へ

コスモエネルギーグループは、中東地域で日系企業がオペレーターとなる会社としては最大規模の原油を生産しており、約50年の安定生産を基盤としたアブダビとの信頼関係をベースに低リスク・低コスト開発を実現しています。2012年12月にはアブダビ石油が30年の利権を延長したことに加え、既存3油田と同規模の新鉱区ハイルを獲得しました。更にMIC (旧IPIC) 出資先のセプサ社、アブダビ国営石油会社、コスモエネルギーグループの3社でのACCワークショップを通じて新規権益獲得をめざしています。



コスモエネルギーグループの鉱区



業績推移

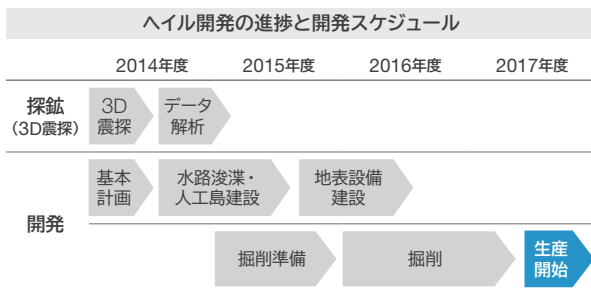
原油価格の低迷により厳しい事業環境となりましたが、操業コスト削減に取り組み、2016年度の経常利益は93億円となりました。2017年度は、原油価格50ドル/バレル（前期は41.3ドル/バレル）、為替110円/ドル（前期は108.8円

/ドル）を前提に、原油価格の上昇に加え2017年度半ばから生産開始するハイル油田や既存油田の増産による生産量拡大により、経常利益は前期比167億円増益の260億円を計画しています。

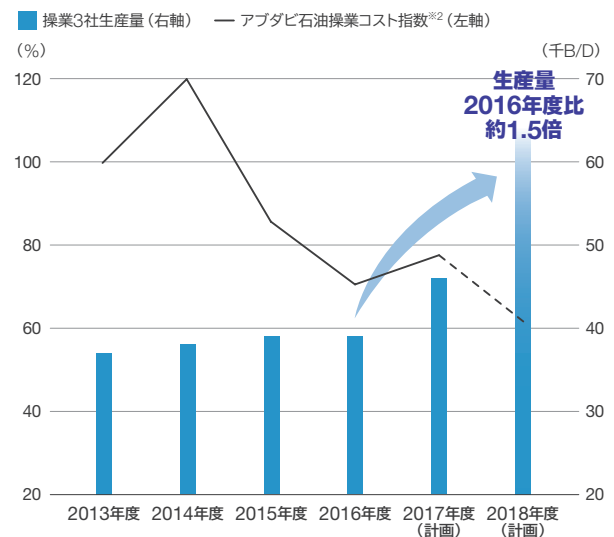
ハイル生産開始による効果

ハイル油田は、2017年度半ばに生産を開始し、2017年度中にはフル生産に達する見込みです。2018年度は期初からハイル油田がフル生産を継続することで、操業3社*の合計生産量は2016年度の約1.5倍となる見込みです。また既存油田に隣接しているため、既存設備の共有が可能であり、生産量増加で単位当たり操業コスト低下を見込んでいます。ハイル生産が通年で寄与することにより、2018年度以降は大幅な収益貢献が期待されます。

※アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発



操業3社生産量およびアブダビ石油操業コスト*1の推移



※1 油井の改修費用、設備のユーティリティ、補修費、操業にかかわる人件費など
 ※2 2013年度のアブダビ石油の操業コストを100として指数化

より良い社会の実現へ向けて ~CSV (Creating Shared Value) ~

国を超え、文化を超えて

資源の少ない日本は大部分を輸入に頼っており、エネルギーの安定供給は大事な使命です。コスモエネルギーグループは早くから中東産油国との信頼関係を築くための活動に注力。特にアラブ首長国連邦 (UAE) ・アブダビ首長国とは、UAE建国前から約50年にわたって安定生産を継続、更に環境保護活動や人材教育に注力するなど、強固な信頼関係を築いてきました。

安全・安定操業の実現

アブダビ石油はUAE建国前の1968年に設立、約50年にわたって安全・安定操業を継続。



環境保護活動

アブダビ石油ではアブダビ国営石油会社の監督下にある企業を対象としたADNOC HSE* Awardにおいて、HSE活動全体における最高賞の「HSE Performance賞」を2014年度に受賞。

※Health, Safety & Environment (保健・安全・環境) の略



日本語教育

学校法人立命館と協力し、アブダビ現地の高校ATHS*にて日本語教育プログラムを提供。当プログラム修了生のうち11名がアブダビ国営石油会社の奨学金で日本に留学中。

※Applied Technology High School

